

JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構

ニュースレター 2026年 8月号



vol.208



連載

自動車リサイクル業界を 担うホープ(28)

名前: 櫻井 勇太(さくらい ゆうた) (42歳)

所属: 株式会社三重パーツ
(三重県鈴鹿市)

担当: 製品販売促進課

特技: すぐに寝られること

MBTI: 提唱者型 (理想や信念を大切にし、
目先の利益よりも本当に価値のあることを重視
します)

— 仕事で誰にも負けない部分

フットワークの軽さ

— この業界の魅力を一言で

安価で自動車部品を買えたり、入手
困難な物を探す事が出来ること

— 将来の業界への期待

安定的な部品供給やお客様のニーズ
に応えられる会社が増えること

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめる
テストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイトル
のプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【連載】自動車リサイクル業界を担うホープ /
熊本地震で被災された皆様へ ——— P.1

AVICについて ——— P.2

第24回景況調査結果 ——— P.3

台湾フォーラムにJAERAが参加/JAERA会議・活動報告 ——— P.4

6月新車販売台数・使用済自動車発生台数・輸出返還台数 ——— P.5

鉄スクラップ最新情報 ——— P.6

活動予定・お知らせ / 編集後記 ——— P.7

巻頭言

代表理事

石井 浩道

このたびの熊本地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。会員の皆様におかれましては、事業面でのご心配に加え、従業員の皆様やご家族の皆様の安全・生活面でもご不安の続く状況かと存じます。JAERAでは、こうした状況を踏まえ、被害状況の把握と情報共有のため被災対策本部を立ち上げ、必要な情報の収集を進めております。何かお困りのことがございましたら、遠慮なくご相談ください。皆様の安全と、被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

02

分かれて動く時代から、業界全体で動く時代へ — 石井代表に聞く、4団体連携「AVIC」が目指すもの —

AVIC —自動車の静脈産業に関わる団体の連携共同体

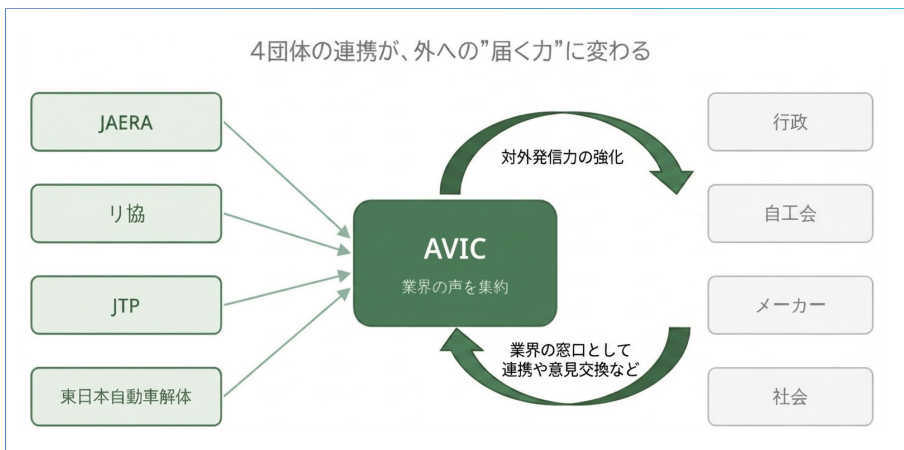
最近、会員の皆様からAVICについてのお問い合わせやご関心の声をいただく機会が増えてきました。

「AVICとは何か」「なぜ今この連携が必要なのか」といった点について、もう少し詳しく知りたいという声も多く寄せられています。そこで今回は、JAERAの石井代表理事に、AVICが目指すものやその背景について改めて話を伺いました。

自動車リサイクル業界はこれまで、解体、リサイクル部品、リビルト、素材循環、適正処理など、それぞれの分野が役割を担いながら発展してきました。各分野が積み重ねてきた知見や経験は、今日の業界を支える大きな力です。

一方で近年、業界を取り巻く環境は大きく変わっています。カーボンニュートラルへの対応、資源循環政策の高度化、不適正ヤード対策、法令順守の徹底、リユース部品活用の拡大など、行政・メーカー・社会から求められる役割は、これまで以上に広がっています。こうした課題は、もはや一つの団体、一つの分野だけで完結できるものではありません。だからこそ今、必要なのは、業界全体が**“一枚岩”**となって一つの声を持ち、一体的に動いていくことです。

その考え方を形にしようとしているのが、AVIC(エービック) (Automotive Venous Industry Consortium) であり、日本語にすると自動車の静脈産業に関わる団体の連携共同体です。



このAVICは、JAERA、リサイクル部品協議会、日本トラックリファインパーツ協会（JTP）、東日本自動車解体処理協同組合の4団体が、それぞれの立場や役割を尊重しながら、業界全体として連携を深めていくための共通基盤です。4団体が知見や経験、現場の声を持ち寄ることで、これまで分散していた力を束ね、より大きな発信力、提言力、対話力、実行力へと高めていくことを目指しています。

AVICが目指しているのは、単に団体同士がつながることではありません。行政への政策提言、自工会・メーカーとの対話、社会への発信、地域や分野を越えた知見共有など、4団体の連携を“届く力”へ変えていくことにあります。4団体の声が束ねられることで、業界の発信は“点”ではなく“面”になります。



また、外国人経営者を含む多様な事業者の参入が進むなかで、不適正ヤード対策や適正処理の徹底についても、業界全体で足並みをそろえた対応がこれまで以上に重要になっています。こうした課題に対して、業界としての説明責任を果たし、社会からの信頼を高めていくうえでも、AVICのような共通基盤の意義は大きいといえます。

これからの時代に必要なのは、「それぞれの声」だけでなく、業界の総意としての声です。AVICは、そのための土台づくりであり、業界全体の未来を守り、次の世代に誇れる自動車リサイクル産業を残していくための基盤づくりでもあります。JAERAとしても、会員の皆様とこの意義を共有しながら、業界全体の発展につながる取り組みを進めてまいります。

03

第24回 景況調査報告 2026年4～6月期

集計：長崎大学 経済学部 教授 木村真実

前年同期比の売上高・経常・資金繰りは二桁改善 次期見通し依然マイナス

【調査要領】

- ①調査期間：2026年6月17日（水）～6月30日（火）
②対象企業：日本自動車リサイクル機構会員企業
③調査の方法：FAX・Webの送受信による自計記入を求めた。
④回答企業数：426社のうち103社（24.2%）から回答を得た（うち、有効回答数103）
⑤平均従業員数：役員を含む正規従業員数 31.9人（前回35.5人）
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 7.1人（前回9.1人）
※DI値（DI：Diffusion Index）「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの ※：本文中の「△」はマイナスを意味する。

今回の調査結果についての詳細や解説などは、以下の「報告書版」からご覧ください。

報告書版はこちら

<https://www.elv.or.jp/media/20/20260724-keikyo24.pdf>

図では第1回景況調査（2020年7-9月期）から第24回景況調査（2026年4-6月期）までの、前年同期比のDI値の推移を示す。第24回は、前回の第23回調査（2026年1-3月期）と比べると、業況判断は5.1ポイント改善、売上高は10ポイント改善、経常利益は15ポイント改善、資金繰りは14.5ポイント改善した。

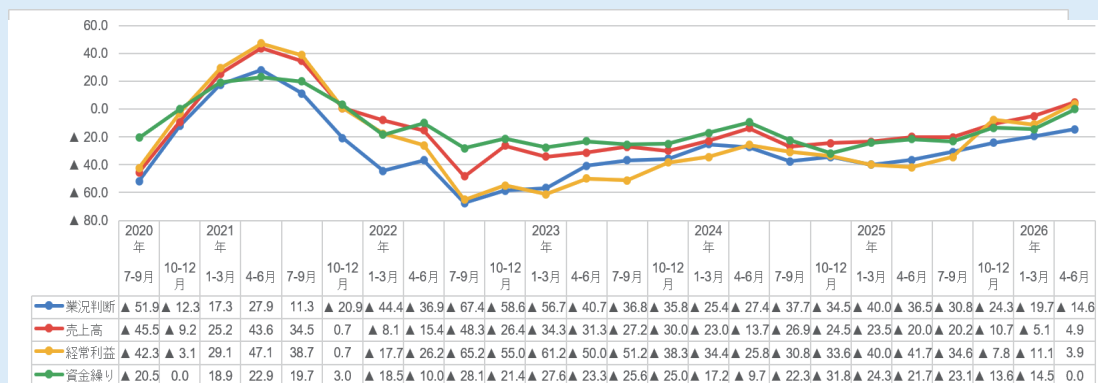


図 前年同期比でのDI値の推移

以下の表では、2026年1～3月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りの動向を、前期比、前年同期比、次期見通しで示す。

表 業況判断、売上高、経常利益、運転資金調達の動向

	前期比(2026年1～3月と比べて)				前年同期比(2025年4～6月と比べて)				次期見通し(2025年7～9月と比べて)			
業況判断	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
	14.56%	55.34%	30.10%	-15.5 (-16.2)	15.5%	54.4%	30.1%	-14.6 (-19.7)	14.6%	51.5%	34.0%	-19.4 (-30.8)
売上高	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
	26.21%	54.37%	19.42%	6.8 (2.6)	28.2%	48.5%	23.3%	4.9 (-5.1)	17.5%	55.3%	27.2%	-9.7 (-17.9)
経常利益	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値	好転	横ばい	悪化	DI値
	23.30%	55.34%	21.36%	1.9 (-11.1)	27.2%	49.5%	23.3%	3.9 (-11.1)	18.4%	49.5%	32.0%	-13.6 (-24.8)
資金繰り	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値	容易になった	変わらない	厳しくなった	DI値
	11.7%	75.7%	12.6%	-1.0 (-12.8)	14.6%	70.9%	14.6%	0.0 (-14.5)	11.7%	68.0%	20.4%	-8.7 (-13.7)

注：DI値欄のカッコ内の値は前回調査時のDI値です。

■事務局より■

次回、第25回(2026年7～9月期)の景況調査は、9月17日(木)～9月30日(水)で予定しております。
皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。

04 ▶ 日台循環経済交流フォーラム

台湾から高い関心、日本の自動車リサイクルの取組みを発信

6月29日(月)日台循環経済交流フォーラムが東京都で開催され、JAERAからは阿部専務が、日本の自動車リサイクル業界の現状や取組について説明を行いました。(6月30日には業界団体の関係者との意見交換も実施)

今回のフォーラムは、循環経済分野における日台の相互理解を深め、今後の連携の可能性を探ることを目的として開催されたものです。台湾側からは、自国の使用済自動車(ELV)回収・処理制度の現状や、基金を活用したリサイクルの仕組みが紹介されるとともに、日本の制度や現場の取組みに対して高い関心が示されました。

特に、使用済自動車の流れをどのように把握しているのか、自動車の解体やリチウムイオンバッテリーの取り外しにどう対応しているのか、部品リユースや人材育成をどのように進めているのかといった点について、台湾側から具体的な質問が寄せられました。こうした関心の背景には、台湾においても今後、資源循環の高度化や電動車対応を見据えた制度・現場整備を進めていきたいという目的があります。

これに対し、JAERAからは、日本の自動車リサイクル業界を取り巻く状況に加え、適正処理の推進や人材育成、業界の信頼性向上に向けた取組みについて説明しました。とりわけ、業界唯一の資格制度である「自動車リサイクル士制度」や、関係機関と連携した活動は、日本の自動車リサイクルを支える仕組みとして関心を集めました。

自動車リサイクル業界は、使用済自動車の減少、電動車への対応、人材不足、事業承継など、大きな変化の中にあります。そうした中で、業界の声を集約し、適正処理の基盤づくりと人材育成を進めるJAERAの役割は、国内だけでなく、海外との交流の場においてもますます重要になっています。

今回のフォーラムは、日本と台湾の関係者が自動車リサイクルをめぐる現状や課題について理解を深め、今後の取組みの参考となる貴重な機会となりました。JAERAとしても、今後も関係者との交流を通じて、自動車リサイクル業界の発展と循環経済の推進に取り組んでまいります。



写真は6月30日に行われた意見交換の様子

05 ▶ JAERA 活動報告

東北ブロック会議

7月8日(水) 仙台市において「東北ブロック会議」が開催され、本部の石井代表理事をはじめ東北各県支部の代表者らが出席した。会議では、欧州におけるELV輸出規制の動向や国内資源循環の重要性、自動車リサイクル法施行20年に向けた制度見直しの方向性について共有が行われた。特に、車両輸出対策、不適正事業者の排除、人材育成、EV等電動車の安全な解体体制整備などが重点事項として示された。また、自動車リサイクル士講習会の今後の運営、ワイヤーハーネス共同出荷事業、廃油共同出荷事業などの具体的な取組についても説明があり、各支部から活動報告が行われた。東北ブロックとして、適正処理の推進と資源循環の強化に向けた連携を一層深める機会となった。



会議の様子

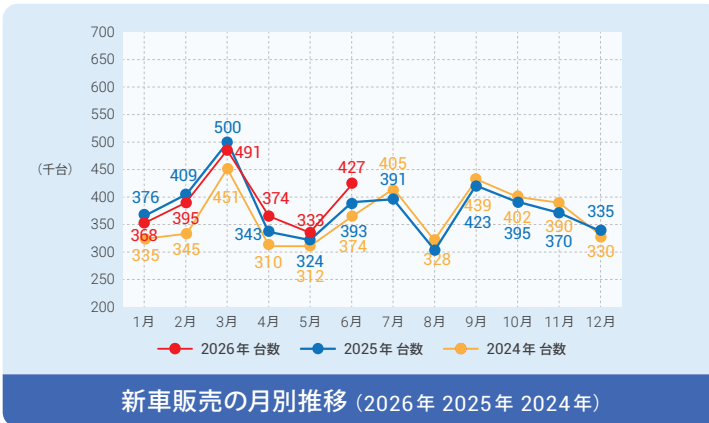
06

6月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2026年6月の台数動向

— 使用済、中古車輸出は前年を大きく割る、新車販売は前年越え

■2026年6月度 新車販売台数 426,884台（前年同月比108.6%）

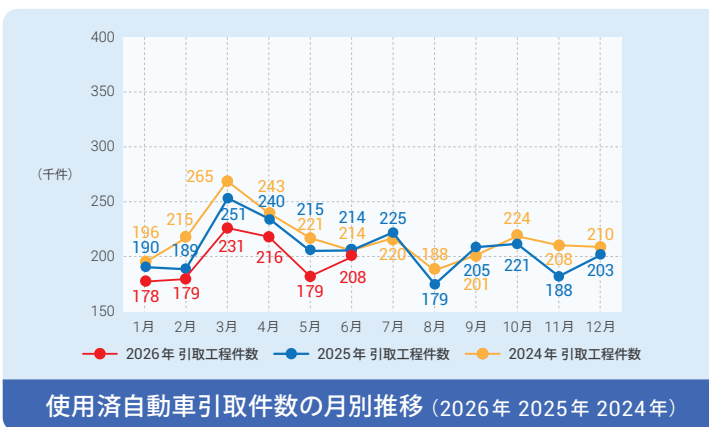


過去の新車販売台数推移		
年累計	台数(台)	前年比(%)
2026年(6月まで)	2387,190	101.8
2025年	4,565,777	103.3
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取（電子マニフェスト）実施状況

2026年6月度 引取工程 207,862件（前年同月比97.1%）

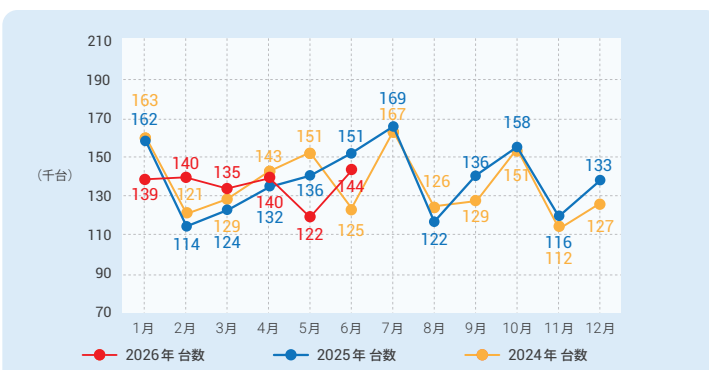


過去の使用済自動車引取台数推移		
年累計	件数(件)	前年比(%)
2026年(6月まで)	1190,629	90.7
2025年	2,519,062	97.2
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※

2026年5月度 144千台（前年同月比95.4%）



※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数

過去の中古車輸出に係る返還台数推移		
年累計	台数(千台)	前年比(%)
2026年(6月まで)	820	100.7
2025年	1,656	100.7
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5

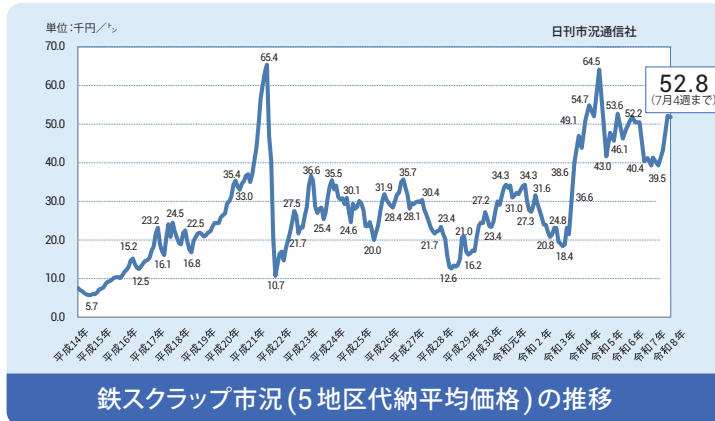
※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

07

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

7月第5週（29日）の鉄スクラップ動向



7月29日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	50,000 ～ 52,000	値下がり
	南関東	50,000 ～ 52,000	値下がり
	浜値	49,000 ～ 49,500	値下がり
名古屋		52,500 ～ 53,500	値下がり
関西	大阪	52,000 ～ 53,000	値下がり
	姫路	52,000 ～ 54,000	値下がり

国内市場 東日本・東海相場が続落

日本国内の鉄スクラップ市場では、北海道を除く東日本と東海で7月28日、需要家筋の値下げ改定が広がり、続落する展開となった。海外・輸出安に加え、国内電炉が夏季減産期に入ったことなどから、需要家筋が購入価格を引き下げて引き合いを弱める展開とな

っている。値下げ幅は、東日本市場が1トあたり500円どころ。一部が新断の値下げ幅を1,500円とした。東海市場が新断1,000円、その他500円どころ。

市中スクラップの発生は低迷し、「夏枯れ」によって一段と薄い。また、円安や物価高など、鉄スクラップ市況にとって強要因が依然として多いのが現状だ。しかし、現時点では、弱材料が優位な状況にあり、底堅さを残しつつも下げ相場が続く状況となっている。

東京製鉄は、2月下旬からの上げ相場が一服した5月中旬以降、拠点別の特級の購入価格を1～6回、合計500～3,500円値下げした。特に輸出安の影響を強く受けた宇都宮工場は5回（合計3,000円）、東京湾岸サテライトヤードは6回（同3,500円）と、他に比べて値下げ幅が大きい。このため、東日本相場が先行安となっている。

関東 7月第4～5週に下落ペース加速、浜値が先行安

7月10日以降、値下がり局面にある関東鉄スクラップ市況は、7月第4～5週に下落ペースが加速し、23日から28日にかけて1トあたり1,500円どころ下落した。浜値の先行安や域内消費量の減少によって、東京製鉄関東2拠点の在庫量が増加し、購入価格の急速な下げにつながった。関東地区のH2炉前実勢価格は50,000～51,500円中心、高値52,000円見当。H2浜値は49,000～49,500円中心。浜値が先行安となっている。

東海 需給緩和感はないものの軟調な相場推移

東海市場の鉄スクラップ市況は、7月28日から29日にかけて、新断の購入価格を1,000～2,000円、その他500～1,000円どころの値下げ改定が広がり、軟調な相場推移となっている。東海主要電炉の月間粗鋼生産量は、今年1月から7カ月連続で前年同月実績を上回る見通しで鉄スクラップ需要量は回復傾向にある。その一方で市中スクラップの発生は鈍く、需給に目立った緩和感はない。H2炉前実勢価格は52,500～53,500円中心。

大阪 一部は引き合い継続も需要面にバラつきがあり弱含み

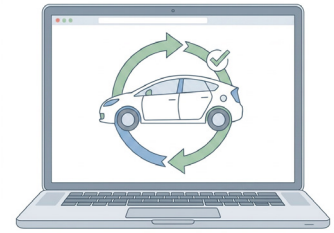
大阪地区の鉄スクラップ市況は弱含み気配にある。電炉筋によっては引き合いを緩めにくいものの、需要面にバラつきが生じ、先安気配が残る。7月第4週末は一部荷止めの影響などにより、複数で想定以上となる入荷があったが、第5週は落ち着きを取り戻している。他地区や湾岸への流出に加え市中発生も停滞感をさらに強めているため、地区単独で引き合いが一斉に緩まることは考えにくい。H2炉前実勢価格は52,000～53,000円中心。

（※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、7月29日午後時点のもの）

08

自動車リサイクル士 更新講習会のご案内 —2026年度に資格期限を迎える方向け—

自動車リサイクル士の資格有効期間は、取得日から5年間です。資格期限を迎える方には更新講習会を受講いただき、更新後は資格の有効期間がさらに5年間延長されます。今年は、**2026年10月・11月・12月に資格期限を迎える自動車リサイクル士の方**（217名）の皆さまを対象に、2027年2月から3月にかけて更新講習会を開催する予定です。開催日は複数あり、受講はそこからご都合のよい1日を選んでいただけます。**対象の方には、登録されている住所宛に2026年9月下旬ごろDM（郵送）をお送りいたします**ので、お手元に届きましたら内容をご確認のうえ、受講のお手続きをお願いいたします。



また、今回の講習会では、更新に必要な基礎的な内容に加え、ハイブリッド車や電気自動車の知識・構造・適正処理に関するプログラムも予定しています。

開催日時や会場などの詳細が決まりましたら、ニュースレターでもお知らせします。ぜひご受講ください。

編集後記



最近、人型ロボットのニュースを見かける機会が多くなりましたが、今年も北京で人型ロボットのハーフマラソン大会が行われたようです。さまざまな形のロボットたちが個性豊かに走る姿を見て「面白いなあ」と思っていたら、なんとその記録が50分26秒で、人間の持つ世界記録57分20秒を上回ったと知り驚きました。しかも、人間の操作なしに自立走行で走ったというのですから、さらに驚かされます。

かつて日本は、世界初のアシモ君を誕生させました。私たちは、ヨチヨチ歩いていたアシモ君に「頑張れ」と声援を送っていたのに、今ではロボットに勝てないという現実になったわけです。今後は間違いなく、人間とロボットが共存する世界になるのでしょう。ただ、共存の仕方にもいろいろあるわけで、くれぐれもロボットに人間が使われるようなことにならないよう願うばかりです。

それにしても、暑い毎日が続いています。人と顔を合わせれば、まず「暑いですね」から始まります。暑すぎて、外での仕事ができない時もあります。でも、こんな時でもロボットなら、何も言わず正確に仕事をするのでしょうか。

人間味はありませんが、まあ当たり前ですよ。

広報部会長 田村 幸男

8月の活動予定&取組み

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

21日（金） | 第5回自動車リサイクルサミット（JAERA 登壇）

26日（水） | 第5回広報部会（WEB）

27日（木） | J-FAR 異常電池処理定例会（WEB）

| その他会議等—

| 自動車リサイクルや業界に関する会議等（8/3、8/5、8/24）

| 行政・関係団体との会議等（8/4、8/5、8/6、8/24）

※事務局夏季休業：8月10日（月）～8月14日（金）

